

シマゲンゴロウ *Hydaticus bowringi* Clark

【選定理由】

かつて県内各地の池、水田などいろいろな水域に生息し、決して珍しい種ではなかったが、現在では限られた地域に細々と生息するのみとなっている。

【形態】

体長 13～14mm。体は卵形でよく膨隆し、光沢がある。頭・前胸背は淡黄褐色で、それらの後縁中央は黒色。上翅は黒色で、中央と側縁近くに淡黄縦条があり後方で合一し、基部に円紋がある。体下面は黄～赤褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

平野部の池を主体に広く分布していたが、現在では三河地方の限られた水域にわずかに生息しているに過ぎないと推定される。

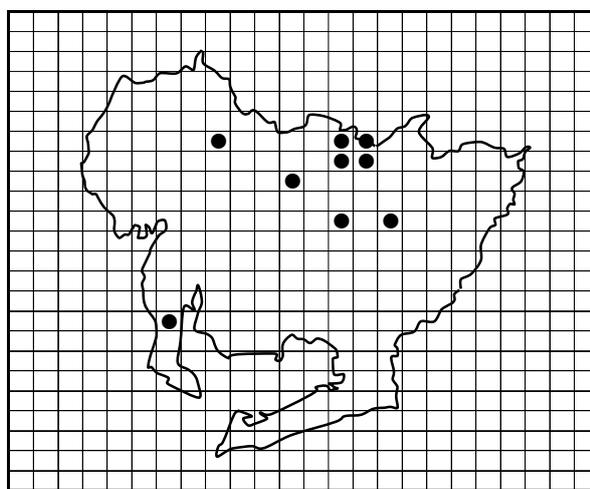
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、トカラ列島。

【世界の分布】

中国、台湾、朝鮮半島。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

各種の池、水田などの比較的いろいろな水域に生息していた。夏期にはよく灯火へも飛来する。

【現在の生息状況／減少の要因】

三河地方には現存していると思われるが、2009年以降の確認はなく、実際にはランクより危急な状態にある可能性がある。農村の高齢化などによる水田の放棄、池の消失、汚水の流入、外来種による影響などによって減少していると思われる。

【保全上の留意点】

残された生息地の保全が重要であり、アメリカザリガニ等の外来種の駆除を進める必要がある。水田やその周辺の水域に生息する種であることから、ネオニコチノイド系農薬の影響についても留意する必要がある。

【関連文献】

北山 昭ほか, 1993. 日本のゲンゴロウ: 143. 文一総合出版.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)